

第607回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 熊本城復元整備事業

..... 熊本市中央区本丸他

加藤清正が築城した熊本城（旧城域98ha）を当時の雄姿に復元し、市民や観光客に愛され利用されることを目指し、平成9年に熊本城復元整備計画を策定しました。

城域は広大かつ構造が複雑であるため、本丸（保存・復元ゾーン）、二の丸（緑の遊園ゾーン）、三の丸（歴史・学習体験ゾーン）、古城（観光客のエントランスゾーン）、千葉城（文化交流ゾーン）の5つのゾーンに区分し整備を進めていくこととしました。

計画は短期・中期・長期に分けられ、短期（第Ⅰ期）復元整備計画は、平成10年度から築城400年にあたる平成19年度までに本丸御殿大広間をはじめ7つの建造物を復元しています。現在は、第Ⅱ期復元整備計画（平成20年度～）により、馬具櫓および続塀、平左衛門丸の塀、西櫓御門および百間櫓の復元を進めていく予定です。



2 熊本駅周辺事業

..... 熊本市西区

熊本市の中心市街地から南西に約3kmに位置する熊本駅は、明治24年の鉄道開通以来、熊本の陸の玄関口として大きな役割を担っていました。しかし、熊本駅周辺地域は、中心市街地から離れていることや、鉄道により東西に分断され、また駅西側は低層の密集市街地で、道路も狭隘であるため、人口も減少し周辺商業も衰退が見られるなど、その拠点性の向上が阻害される状況にありました。しかしながら、当地域はJRを始めとする公共交通機関の結節機能を活かした発展が期待されていたことから、九州新幹線全線開業を機に熊本駅を中心とした約63.2haを対象に整備を図ることとしました。平成23年3月には九州新幹線も全線開業し、広域的な交通利便性が向上し、九州中央の交流拠点都市として発展していくために、鋭意、まちづくりが進められています。熊本駅周辺整備事業は「熊本駅周辺地域整備基本計画」を熊本県と熊本市で平成17年6月に策定し、現在も熊本駅西土地区画整理事業、鹿児島本線等連続立体交差等整備事業、都市再生整備計画事業などを実施しています。



熊本城に隣接する国の熊本第1地方合同庁舎は、老朽化が進み、また、現庁舎が熊本城復元整備計画区域内にあることから、移転建替が進められ、A棟は平成22年度に完成し、九州財務局や九州農政局等が入居しています。B棟はPFI事業で実施し、熊本国税局や熊本西税務署等が入居予定になっており、平成26年10月の供用開始を目指しています。

熊本城に隣接する国の熊本第1地方合同庁舎は、老朽化が進み、また、現庁舎が熊本城復元整備計画区域内にあることから、移転建替が進められ、A棟は平成22年度に完成し、九州財務局や九州農政局等が入居しています。B棟はPFI事業で実施し、熊本国税局や熊本西税務署等が入居予定になっており、平成26年10月の供用開始を目指しています。

また、連続立体交差等整備事業は、JR鹿児島本線の熊本駅及び上熊本駅を含む約6km、及び豊肥本線約1kmを対象に事業を実施しています。JR鹿児島本線等により分断された市街地において、鉄道を高架化し多数の踏切を一挙に除去し、都市交通の円滑化や分断された市街地の一体化を図ることとしています。平成26年度末に鹿児島本線の上り線は全区間約6km、下り線は駅部を除く北側約4kmの高架供用を予定しています。また、平成29年度末に残る区間の高架供用を、平成30年度に熊本駅舎の完成を予定しています。

3 白川河川改修事業

..... 熊本市中央区～北区

白川は、自然豊かな阿蘇カルデラに源を発し、熊本市の密集市街地の中心を貫流し、軟弱な低平地に広がる穀倉地帯を経て有明海に注いでいます。白川中流域においては熊本の地下水の主要な涵養域となっており、また下流域は立田山や熊本城をはじめとした歴史的価値の高い史跡も多い地域となっています。白川では、昭和28年の豪雨の際、阿蘇地方各所で山崩れが起こり、火山層を覆う「ヨナ」が熊本市内に流れ込み大洪水（最大流量3,200～3,400m³/S）となり、昭和55年、平成2年の豪雨においても氾濫し、市街や下流域において甚大な被害を受けました。そこで、治水対策等の対応を実施するため平成



14年7月に白川水系河川整備計画を策定し、治水対策のほか、環境整備など一体的な整備を実施しており、安心して親しめる河川を目指し整備を進めています。また整備を進めるにあたり、緊急対策特定区間として、改修効果が極めて高い区間を設定し、重点的に整備を進めることとしています。特に熊本市街地に近い子飼地区（緑の区間（大甲橋～明午橋までの区間））については、熊本市を代表とする景観を有しており、堤防の構造形式や河岸掘削の方法のほか、緑豊かな景観に配慮し、近年昭和55年及び平成2年規模の降雨が起こっても安全に流下させることができるよう整備を進めることとしています。

4 熊本西環状線整備事業

..... 熊本市北区下硯川町～西区池上町

九州中央に位置する熊本都市圏においては、県内のみならず九州主要都市とのアクセスを向上し、都市機能の充実を図り交流拠点性を高める必要があります。その役割を担う、地域高規格道路「熊本環状道路」（L=30km）は、国道57号熊本東バイパス・国道3号熊本北バイパス及び熊本西環状線等によって構成され、また、「中九州横断道路」「熊本天草幹線道路」等との広域連絡機能を併せ持つ、交通ネットワークの核となる道路として早期整備が強く望まれております。また、災害に強い地域づくりのため、災害時の緊急輸送路や避難路となる本路線の整備が急務となっています。



熊本西環状線は、熊本環状道路の西側を構成する自動車専用道路で、全延長12kmのうち下硯川インターから池上インターまでの9km区間については、暫定2車線で工事が進められており。

整備後には、中心市街地の渋滞緩和や都市圏交通の連携を促す等の効果が期待されています。